



非常時の「対応力」を磨く避難訓練

主体的な避難行動：『一人のときの判断力』と『集団のときの気遣い』 | 173名全員の『命と安全』の確保

6月5日（金）、第1回避難訓練（火災想定）を実施しました。今回は「4校時の授業中、出火場所は事前告知なし」という流動的な状況を設定し、全員の『命と安全』に関わる非常時の『対応力』の向上を目指しました。訓練後には、自分一人のとき、そして仲間とともに集団にいるときに、それぞれがとるべき『主体的な避難行動』について確認しました。

1：避難訓練の意義

今回の避難訓練は、令和8年度最初の避難訓練でした。訓練を行う大きな目的は、大船渡中学校に在籍する173名の全校生徒と教職員全員の『命と安全』を、いかなる状況でも守ることにあります。災害は、いつ、どこで起こるかわかりません。だからこそ、決められた動きをただ行うだけでなく、その場の状況を受け止め、自分の命を守るために考えて行動することが大切です。

2：非常時の対応力

今回は、避難指示が出てから報告完了までの目標時間を「4分」と設定しました。結果は4分16秒でした。授業中という想定の中で、避難の開始から集合、人員確認、報告までの流れを通して、非常時に必要な『対応力』を確認する機会となりました。訓練の結果からは、よかった点だけでなく、さらに高めていける点も見えてきました。生徒の皆さんも先生方も、今日の動きをしっかりと振り返り、災害に立ち向かうための『対応力』を、学校全体でさらに高めていきましょう。

3：主体的な避難行動

最後に、皆さんが身に付けていきたいのが『主体的な避難行動』です。自分一人のときには、周りの状況を見極め、安全な行動を自分で判断する力が必要です。一方で、集団の中にいるときには、自分だけでなく周りの人の安全にも目を向け、互いに気遣いながら行動する力が求められます。

自分自身の判断力を磨くこと、そして周りの人への気遣いを忘れないこと。この2つを意識することで、本当の意味での『主体的な避難行動』に近づくことができます。今日の学びを日々の生活にもつなげ、さらに安心・安全な大船渡中学校をつくっていきましょう。

「お・か・し・も」と「ハンカチ」の意味

避難の際に大切にしたい約束が、「おさない、かけない（走らない）、しゃべらない、もどらない」です。狭い階段や通路では、一人のあわてた行動が全体の危険につながる可能性があります。全員が安全に目的地に向かうためには、周りの人の動きにも気を配りながら、落ち着いて行動することが大切です。

また、火災では「煙」への対応も重要です。「ハンカチを口と鼻に正しくあてる」ことは、自分の呼吸器と命を守る大切な行動です。総務省消防庁の統計によると、火災において最も警戒すべきは、「火」そのものよりも「煙」です。火災による死亡原因の約4割は、煙に含まれる一酸化炭素中毒や窒息というデータがあります。煙は階段などの縦の空間を、想像以上の速さで駆け上がります。そして一瞬にして視界も奪います。こうした一つ一つの行動には、命を守るための極めて重要な意味があります。

